

主題：ローマ人への手紙第5章から第8章——聖書の核心

メッセージ 8 思いを霊に付ける

聖書：ローマ8:4-7. 12:2. エペソ4:18, 23. Iヨハネ5:11-13. ピリピ4:7

I. わたしたちは思いが戦場であることを認識する必要があります——マタイ16:23. エペソ6:12, 16-17:

- A. サタンと神の両方がわたしたちの中にいるので、わたしたちの思いは神とサタンとの戦場となりました——IIコリント10:4-5. 11:3。
- B. 二つの王国（サタンの王国と神の王国）の戦場がわたしたちの思いの中にあります——マタイ12:26, 28:
 - 1. 独立した思いは打ち破られますが、霊に依存する思いは勝利を得ます——ローマ7:23, 25. 8:5。
 - 2. わたしたちがサタンと一であるか神と一であるかは、わたしたちの思いをどこに付けるかによって決まります——6節。
 - 3. わたしたちは悔い改めを学ばなければなりません。悔い改めるとは、わたしたちの思いを主に向けることを意味します——マタイ3:2。
 - 4. 敵と戦うために、わたしたちが知らなければならないのは、思いが戦場であることと、わたしたちの思いを保護し覆う方法は、常にそれを主に向けることです——エペソ6:12, 16-17. 啓2:5, 16. 3:3, 19。

II. ローマ第8章6節から8節の極めて重要な項目は、思いです:

- A. 思いは魂の主導的な部分であり、それは人の人格、パースンです。ですから、思いは、魂、すなわち、パースンそのものを代表しています——12:2. 15:5. Iコリント1:10. 2:16. ピリピ2:5. 4:2。
- B. ローマ第8章では、思いは、再生されミングリングされた霊と、墮落した体である肉の間であって中立の状態にあります。
- C. ローマ第7章と第8章が示しているのは、思いには二つの異なった機能があつて、それによって思いは霊の中にいたり、肉の中にいたりすることが可能であるということです:
 - 1. もし思いが、神の霊とミングリングされている再生された霊に頼り、それと結合するなら、わたしたちを霊の中へ、命の法則である神聖な霊の享受の中へともたらずでしょう——2, 6節。
 - 2. もし思いが肉と結合し、独立的に行動するなら、それはわたしたちを肉の中へともたらし、神に敵対させ、神を喜ばせることができないようにさせるでしょう——6-8節。

III. 霊にしたがっている者は、その霊の事柄を思います——4-5節:

- A. その霊の事柄とはキリストに関する事柄であり、その霊はそれを受けて、わたした

ちに言明します—5節. ヨハネ16:14-15。

B. わたしたちが霊を活用して、その霊の事柄を思うとき、結局はわたしたちの全存在が霊にしたがうようになります—ローマ8:4。

C. 文字どおりには、「霊に付けた思い」は、霊の思いです。

D. 思いを霊に付けることは、5節のその霊の事柄を思うことと同じことです。

IV. 思いを霊に付けることは、生か死かの秘訣です—6節：

A. 肉に付けた思いは死です—6節前半：

1. わたしたちが死を知っているのは、わたしたちに死の感覚、意識があるからです。

わたしたちは平安がなく、生き生きしておらず、不安で、死んでいると感じます。

2. 不安、不満足、虚しさ、古さ、渇き、暗やみ、不和、焦燥感、束縛感は、死の感覚の状況です—マタイ6:31-32。

3. 死の感覚は、わたしたちを肉から救い出して、霊の中に生きるように促す、わたしたちに対する警告として捉えるべきです—ローマ8:4。

B. 霊に付けられた思いは命です—6節後半：

1. 全宇宙の中で、神の命だけが命と見なされます—ヨハネ1:4. 10:10. 11:25。

2. 命は神の内容であり、神の流れ出です。神の内容は神の存在であり、神の流れ出は彼ご自身を命としてわたしたちに分け与えることです—エペソ4:8. 啓22:1。

3. 神の命は神聖で、神の性質を持ち、永遠で、非受造で、初めも終わりもなく、自ら存在し、永遠に存在し、常に存在し、決して変わりません—ヨハネ3:15. I ヨハネ2:25. 5:13, 20。

4. 神の永遠の命は不朽であり、不変であり、腐敗しません。それはまた死とハデスの試みを経て、死を征服し、死を飲み尽くす復活の命です—ヘブル7:16. 使徒2:24. 啓1:18。

5. 永遠の命は、神の御子の中にある、神の御子である命です—I ヨハネ5:11-12. 1:2。

6. 命は手順を経て究極的に完成された三一の神であり、わたしたちの中へと分与され、わたしたちの中に生きています—ローマ8:6, 10-11。

C. 霊に付けた思いは平安です—6節後半：

1. わたしたちの思いが霊に付けられるとき、わたしたちの外側の行為は内なる人と一致しています。わたしたちと神との間に食い違いはなく、わたしたちは内側に平安を感じます—1:7. 5:1. 14:17。

2. 新約は神の平安と平安の神の両方について述べています—ピリピ4:7. ローマ16:20：

a. 神の平安は実際には平安としての神であり、不安に対する解毒剤として、神との交わりを通して、わたしたちの中へと注入されます—ヨハネ16:33。

b. わたしたちの父は平安の神であり、平穏な性質を伴う平安な命を持っています—ローマ15:33. マタイ5:9. ヘブル12:14. ヤコブ3:18. II テサロニケ3:1 6前半。

3. 神の平安が、わたしたちの心と思考を、キリスト・イエスの中で護衛します。彼はキリストにあってわたしたちの心と思考の前を巡回します—ピリピ4:7。

4. わたしたちはキリストの平安に心の中にあるすべてのことを裁定させる必要があります。キリストの平安にわたしたちの心を裁定させるためには、あらゆる事で、それを支配者また決定者として王位に就かせなければなりません——コロサイ3:15. ヘブル7:2。
- D. わたしたちが思いを霊に付ければ付けるほど、わたしたちの思いは新しくされます——ローマ12:2. エペソ4:23:
1. わたしたちの再生された霊の中に住み、またそれとミングリングされている命を与える霊がわたしたちの思いに拡大するとき、このミングリングされた霊はわたしたちの思いの霊となります。このミングリングされた霊によって、わたしたちの思いが新しくされて、造り変えられます——23節. ローマ12:2。
 2. 思いを霊に付けた結果生じる、思いが新しくされることは、わたしたちの魂の造り変えの基盤です。わたしたちが新しくされることは、わたしたちがキリストのかたちへと造り変えられるためです——8:6. 12:2. IIコリント3:18。
 3. わたしたちの思いは魂の主導的な部分であり、それが新しくされる時、わたしたちの意志と感情も続いて自動的に新しくされます。
 4. 新しくされるとは、新しい要素がわたしたちの存在の中へと造り込まれることを意味します。これによって内側に新陳代謝的な造り変えが生み出されて、わたしたちをキリストのからだの建造のためにふさわしい者とならせます——ローマ12:2, 4-5。

© 2022 *Living Stream Ministry*